

## 会 議 録

会 議 名	第3回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) 自然環境調査の実施について (公開) (2) 社会環境調査の実施について (公開) (3) 戦略策定に向けた今後のスケジュール (案) について (公開)
日 時	令和2年9月15日 (火) 午後4時から午後5時30分まで
場 所	市役所2階中会議室
出席委員氏名	会 長 長谷川 雅美 副会長 茂木 康男 委 員 朽津 和幸、新保 國弘、田中 勝美、柄澤 保彦、 土屋 守、黒川 茂、染谷 幸夫、香西 陽一郎、金丸 治子、鈴木 哲雄、町田 常雄、梅澤 一久、柳澤 朝 江、岡田 壽
事 務 局	今村 繁 (副市長) 宇田川 克巳 (自然経済推進部長) 中村 正則 (みどりと水のまちづくり課長) 勝田 等 (みどりと水のまちづくり課課長補佐) 野島 真紀 (みどりと水のまちづくり課自然保護係長) 久保木 史子 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主任主事) 尾原 諒 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主事補) 満田 和総 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主事補)
欠席委員氏名	委 員 田中 利勝
傍 聴 者	1名
議 事	第3回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果 (概要) は次のとおりである。

## 1 開会

《事務局：中村課長》

委員総数17名のうち16名が出席し、半数以上が出席しているため、条例の規定により会議が成立する旨を報告。

今回の会議は希少種などのデータを取り扱わないため傍聴が可能であること、また本日傍聴希望者がおり、これを許可する旨の了承をいただく（傍聴者1名入場）。

## 2 委員紹介

初参加となる委員の紹介と挨拶。

## 3 会長挨拶

《会長》

野田市から巣立ったオスのコウノトリが今年、渡良瀬遊水地で繁殖した。野田市の事業の成果であり、また、コウノトリに代表される生物多様性への取組を野田市が担っているということでもある。

コウノトリのような生態系の最上位に位置する種が活動できるということは、餌となる生きものが地域に満ちあふれており、生態系が健全であることを意味する。また、生きものの豊かさを大切にすることを考える上でも重要である。

本日は、自然環境、社会環境の調査に向けての議論となるので、活発な議論をお願いしたい。

## 4 議題

(1) 自然環境調査の実施について（資料1-1、資料1-2）

《事務局：野島係長》

資料1-1、1-2を説明。

《委員》

調査地点は前回調査と重なっている地点が多く、前回実施時からの変化をモニタリングするという意味合いがあると思う。調査対象から外れた地点は、現状荒れている場所や、保全する必要性の低い場所となっている。市全域が網羅されているわけではないが、バランスの良い地点選定になっていると思う。事前ヒアリングを踏まえたものであり、この調

査地点案に賛成である。

《会長》

13 か所のすべての調査地点について、必ずしも全委員がイメージできているわけではないと思うが、ただ今委員からは、前回調査者からのヒアリングにより、入念な検討がされているとの発言があった。

《委員》

調査実施地点については十分検討されていると思う。異論はない。中央の杜や理窓会記念自然公園は面積も広大で市民からも親しまれている。これらについてはどのような扱いとなるか。

《事務局：宇田川部長》

ワーキングにおけるスポット的な活用など、今後の市民会議や調査員会で考えていきたい。

《会長》

自然環境調査の実施について、事務局から説明あった通りでよろしいか。

(異議なしの声)

(2) 社会環境調査の実施について (資料 2-1、資料 2-2)

《事務局：野島係長》

資料 2-1、2-2 を説明。

《会長》

小学 5 年生になると、行動範囲が広がり、社会性や客観性も身についてくる。そのような子どもたちをアンケートの対象にするというのは適切だと思う。

《委員》

5 年生は、自転車で出回ることが増え行動範囲が広がることから、いろいろなものに興

味を持ち始める学年でもある。また、4年生までに各分野について一通りのことは学んでいる。集計は事務局でやっていただけるとのことです。学校にとっても無理のないものと思う。

《委員》

社会環境調査ということだが、設問等について関係者との調整はできているか。

《事務局：宇田川部長》

子どもたちや保護者へのアンケートということで、教育委員会と相談し、設問が適切であるかを検討している。

《委員》

前回と今回の調査結果を比較分析すると思うが、誰がやるのか。

《事務局：中村課長》

本事業は委託事業で実施しており、分析は委託先である日本生態系協会にお願いする。結果はきちんとお示しする。

《委員》

どんな生きものがいるか、どんな生きものが増えるといいか、など、生きものを選ぶ選択肢があるが、子どもたちも保護者も生きものの名前と形が一致するだろうか。そのため、付属資料の裏側にアンケートの選択肢にある生きものを紹介する写真を掲載してはどうか。

《委員》

付属資料の表現は、子どもたちにとって難しくないだろうか。分かりやすい表現も必要ではないか。

《委員》

教員による補足説明は若干必要だと思うが、教員がかみ砕いて子どもたちに説明できれば大丈夫だと思う。

《委員》

アンケート配布時に教員が説明を加えることで、子どもたちが理解した上でアンケートを実施できるのが一番良いと思う。

《事務局：中村課長》

学校と協議し、教員から子どもたちにかみ砕いた説明が行えるよう調整する。

《会長》

アンケートは、子どもたちの考えを引き出す以上に、親子で考えてみる・回答することで大人の意識を喚起する効果が、学校においても教員自身が教えることを通じて生物多様性について考える機会になるなど、多くの人が考える機会になるということが、もう一つの意義としてあると思う。将来の野田市を担う子供たちの印象に残るようなアンケートとなってほしい。アンケートを実施するプロセスそのものにも意義があるということ意識して進めてもらえるとよいかと思う。

《委員》

付属資料についてだが、多様な発達段階の子どもがいる中で、資料も様々なレベルのものがあってもよいと思う。今回のアンケートで使うだけでなく、他の学年にも配布して学校や家庭での議論に使ってもらえるようにするのはどうか。教員もそれぞれ生物多様性に関する意識が違うと思うが、全教員に生物多様性について深く理解してもらうためにも、更なる資料の活用方法を検討すると良い。

《委員》

生物多様性三つのレベルは絶対におさえておくべきことと思う。その中で、「遺伝子の多様性」の説明だが、マイマイカブリよりも、野田市に身近なショウリョウバッタの緑タイプ・まだらタイプを取り上げる方が良いのではないか。生き草・枯れ草といった環境にまぎれて暮らすための都合良さは理解しやすいだろう。カマキリの体色の違いでもいいと思う。

《会長》

子どものうちに知っておくべきことと、その後の成長過程で学んでいくこととがある。今の5年生に知ってもらいたいことを伝えられるようにしたい。

《事務局：今村副市長》

野田市では来年度、大部分の児童にいきわたるようパソコンを導入する予定であり、パソコンを活用した授業が可能となる。それに向けた教材事例集を作成することとなっている。生物多様性についても各々の知識に応じた資料の作成などに活かすこともできると思われる。今のご意見も教育委員会に報告していきたい。

《委員》

アンケートの間11（「地球温暖化によって、元々野田市にはいなかった、南の地方の生きものが、野田市に住み始めているということを知っていましたか？」）とあるが、具体的に野田市に住みついた生きものは何がいるのか。そのような細かい知識まで頭に入れるというと、教員の負担が大きいと思う。

《会長》

教員が全てのことを知っている必要はないと考える。知らないことは知らなくて良いし、アンケートは生物多様性について考えるきっかけとして捉えてもらうのがよいのではないか。このアンケートや付属資料ですべて完結させるのではなく、後でかみしめて身につけばよいと考える。

《委員》

アンケートの生きものの選択肢が限定的。せつかく調べるのなら、もっと多くの生きものの一覧を用意し、具体的な回答をもらった方がよいのではないか。

《事務局：宇田川部長》

アンケートは、一部状況の変化で選択肢などを追加している部分はあるが、前回（平成23年度）と比較できるよう、基本的には同じ内容にしている。前回との比較分析を行う関係から、設問形式は変更せずいきたい。

《委員》

せっかくのアンケートなのだから、前は前回、今回は今回で、関係者間で相談し、一覧表チェック形式でのアンケートを行ってみてはどうか。あるいは、選択肢の生きものを知ってもらう機会が必要ではないか。

《会長》

岡田委員のアイデアは普及啓発の段階で活かしていきたい。

社会環境調査については、この場で委員の皆さんから頂いたご意見をふまえ、事務局（案）を調整しながら進めていくということによろしいか。

（異議なしの声）

（3）戦略策定に向けた今後のスケジュール（案）について（資料3）

《事務局：野島係長》

資料3を説明

《委員》

昨年度から今年度にかけて、コウノトリをテーマにしたものを含めて公民館活動が増えている。有り難いことである。市民参加によって生物多様性への認識が高まることが期待されるので、一層進めていただきたい。

戦略の策定後、市は何ができるのか、市民とともに考えるべきだ。市内にも農家や企業がそれぞれの観点で自然を守っている。普及・浸透のためのスケジュールも必要だと思う。

《副会長》

専門的に携わっている人は別として、多くの人にいきなり生物多様性と言ってもわからないだろう。我々が子どもだった昔は自由があり、子どももよく自然に接していた。今の子にはそれがない。また、市の自然環境も変化した。自然とのふれあいが少ない今の子どもたちに意識を持ってもらうためにも、例えば先ほどのアンケートを5年生対象に毎年実施してもらえると有り難い。

《委員》

弊社は三重県と神奈川県で林業を経営している。植林した樹木は商品にならないため、混交林で山を守り、また、スギについては花粉を薬品の原料として販売している。弊社も生物多様性第一・第二の危機にさらされており、対応が難しいところである。なるべく樹木を伐採しないなど、勉強させていただきながら対応を進めている。

《会長》

自然の恵みは暮らしのベースとなるものであるが、一方、生活で実感することがなかなかないものでもある。昔の子どもたちは、小さいうちに自然から様々なことを学び、成長してからは深く考えるという発達段階を経てきた。小学生が自由にのびのびと自然の中で遊べる環境を野田市内に残すことが大事である。生物多様性に関する方針を策定し、市民に受け入れてもらうためにも、今日の議論を踏まえて進めていくべきである。

重要なことは、子どもがのびのび学べる場所を守ること。何を学びとるかは子どもたちの自主性にもよるが、少なくとも学ぶ機会を奪わないようにすることが必要である。

さらに、企業や流通の基本的精神の連鎖の中で生物多様性を認識していくことも重要である。野田市は地理的、歴史的に関東の生物多様性を考える上で要となる場所である。ここでコウノトリの野生復帰をシンボルとして、多様な生きものを、つながりをもって守ることが進められている。今後、関東各地とともに、生きものをベースとした魅力的な地域づくりの精神の共有が求められる。

野田市が良い取組を行っていることを子どもたちにも伝えていきたい。また、これが郷土への誇りを持ってもらうきっかけになればよいと思う。

今後の進め方について、この場で委員の皆さんから頂いた御意見をふまえ、事務局（案）を調整しながら進めていくということよろしいか。

（異議なしの声）

## 5 その他

《会長》

最後に事務局から事務連絡等ございましたらお願いする。



《事務局：中村課長》

委員の皆様には慎重な御審議をいただいたこととお礼申し上げます。

今後は、秋調査の実施に向けた市民への周知を進めていく。市報、HP、土地改良区に周知予定である。

次回、第4回の会議開催については、令和2年11月頃に開催を予定している。また第5回会議は来年1月頃の開催を予定している。市民団体や企業による取組みの紹介を予定している。具体的な日程については、決まり次第、皆様に通知させていただく。

《会長》

本日は長時間の御審議に感謝申し上げます。今日頂いた御意見については、事務局での対応をお願いします。

以上で本日の議事は全て終了したため進行を事務局にお返しする。

## 6 閉会

《事務局：今村副市長》

本日は活発な審議、貴重な御意見を賜り感謝申し上げます。前回戦略策定に当たっては、策定がゴールとなってしまった部分があり、施策の進行をチェック・確認いただくことが欠けていた。今回は、戦略策定後、どう具体的に進めていくのかが一番重要と考えており、そのあたりも議論していきたい。

また、前回戦略では物理的に実施が無理なものも掲載されていたが、今回はやれる施策を着実に進めることを重要視した戦略を策定したいと考えている。そのため、委員の皆様にも、実行性を担保した審議をお願いしたい。

自然環境調査については、第一期戦略策定の際に貢献いただいた市民団体に引き続き担っていただけることとなった。感謝申し上げます。

《事務局：中村課長》

以上をもって、第3回野田市生物多様性の戦略市民会議を閉会とする。